

赤十字七原則

道 平
立 立
仕 一
世 界 性
人 公
中 独
奉 単
世 界 性

ともしび

第 85 号

発行日 令和7年12月10日

発行 君津市赤十字奉仕団

編集 君津市赤十字奉仕団

広報編集委員

事務局 ☎ 0439 (56) 1183

令和7年度事業

一日赤十字

▼ 小糸公民館
▼ 5月26日

令和7年度最初の事業「一日赤十字」は5月26日開催。赤十字を多くの方に知ってもらう第一歩として毎年開催している。この日は、災害時に必要とされる炊き出し・ハイゼックス体験、地震対策の講義、応急手当に欠かせない三角巾の使い方を確認した。またレッドクロスボランティアスクールに参加した鈴木眞佐子さん（周南分団）、石井トモ子さん（小糸分団）の研修報告が行われた。

参加者の感想

一般参加 宮脇 均

一日赤十字の開催を市政回覧で知り、日鉄君津・安全健康室勤務時代に救急法関連業務をしており、また現在は自治会長や自主防災会役員のため関心があり今回参加しました。災害時の炊き出し体験、地震対策の講義、役立つグッズ作り、三角巾の使用方法等の内容で忘れていたことを思い出すことができました。昼食は体験で作ったご飯やおかずが美味しく立派な非常食だと感じました。また奉仕団員の差し入れ（漬物・煮物）も



美味しくいただきました。三角巾でケガの手当てやリラクゼーションでは笑いを交えた講習でとても分かり易く心が和らぎました。今回は赤十字奉仕団の熱心な対応、進行でとても有意義な講習会だと感じました。いつ何が起こるか分からない世の中で、日頃から災害に対する知識を身につける事がとても



写真右 レッドクロスVSスクールで学んだことを報告する鈴木さん石井さん写真上 一般参加者に三角巾の使い方を説明する能星指導員

も大切であると思います、今後も安全・健康に関する講習会、研修会等が開催される場合はできるだけ参加していきたいと思いました。今回の一日赤十字には、奉仕団員の参加が多く一般参加は数名でした。今後は自治体関係に携わっている方に多数参加してもらい、知識を身につける行動を取っていただきたいと願うばかりです。

一般参加 笠倉 設子

今、世界では予想できない災害が頻発していて、日々考えさせられます。そして、こんなことが自分の住む地域で起こるのか？起きた時はどうす

赤十字奉仕団員の信条

- 一、すべての人々のしあわせをねがい、陰の力となつて、人人に奉仕する。
- 一、常に、くふうして、人人のために、よりよい奉仕ができるよう努める。
- 一、身近な奉仕をひろげ、すべての人々と手をつないで、世界の平和につくす。

ぼうさいまちがいさがし きけん はっけん！

市内保育園・学童保育へ出前講座

各学期中に1回講座を開く



「こんにちは」と言うと、元気な声で「こんにちは」と返してくれる。市内の保育園で「ぼうさいまちがいさがし、きけんはっけん！」の出前講座の日、奉仕団員も元気が出ます。一学期は地震・2学期は風水害のテーマに沿って小グループで話し合い〇か×を付けていく。違っていても子どもたちの考えを聞いてあげて。おばあちゃん達にとっても楽しいひとときです。

はぐるまの会 活動報告

代表 梶尾 清江

日頃は、はぐるまの会にご協力ありがとうございます。本会の事業を支える会として主に一日赤十字、救急法講習会、基礎研修会、健康生活支援講習会、また年に4回（5月・8月・10月・1月）実施される献血事業、県支部主催の研修会等への参加、その他地域の防災訓練への動員があります。こうした各種の事業に協力する事でケガや健康、災害などについて学ぶ機会となつて

と思っています。そんな時、温かいご飯とおムレツが目の前に出てきたら、この上ない幸せを感じると思います。「一日赤十字」とても幸せなひと時でした。また私は、防災対策で優先的に取り組むことは、「水や食糧の備え」だと思っていたのですが、「家具の転倒防止」だと言うことを学びました。参加して良かったです。ありがとうございます。

赤十字標語

人間を救うのは、人間だ。

赤十字救急法講習会

「もしもの時に備えて」

松丘コミュニティセンター

「もしもの時に備えて」をテーマとする「赤十字救急法講習会」は、7月9日松丘コミュニティセンターで開催。時節柄熱中症対策と急病の手当て、観察に加えて心肺蘇生法（AEDを含む）、異物除去の実技、午後は身近な物を使ったケガの手当・止血などの講習が行われた。

参加者の感想

一般参加 久野田 芳男

君津市赤十字奉仕団主催による「救急法講習会」に健康維持のために行っている運動教室の仲間3人と参加しました。みんな後期高齢者で耳の不自由な人もいて大丈夫かなと心配もありましたが、一般参加者8名を含む35名が参加しました。熱中症が心配される暑い日で、会場の大ホールのエアコンが効かず急遽部屋を変えてのスタートでした。「急病の手当ての仕方」では、観察の仕方、体位変換、心肺蘇生法、AEDの扱い方などを指導者の指示に従って行いました。



倒れている人の観察をする

赤十字とは、ボランティアとは、と言うことは一日赤十字等で幾度と無く研修を受けていたが、なかなか身につけていなかったと思えます。一番大事な事は人道だと認識しました。赤十字とは、と聞かれても的確に説明することが出来なかったけれど、「人道・公平・中立・独立・奉仕・単一・世界性」これを覚えておけば良いと教わり、この「赤十字7原則」は記憶に留めようと思いました。

2025年 レッドクロス ボランティア スクールを受講

周南分団 白石 芙美子

グループ活動では、色々な地域の多くの方々と交流しました。愉快な方がいたので笑いが絶えないグループでした。それぞれの活動は同じでは無いが、共通の悩みは後継者が集まらないという事でした。課題に取り組み、意見を交わしながら、答えを出していくことでたくさんの気づきがありました。一泊二日で、久しぶりの勉強なので疲れましたが良い体験が出来ました。

秋元分団 小倉 妙子

「赤十字救急法講習会」に参加しました。この日は朝から蒸し暑い日でした。予定会場のエアコンが機能せず急遽別の部屋に移動してのスタートでした。講習では今迄とは少し違う身近な問題を分かりやすく講義していただきました。年々猛威を振るう夏の暑さは体温を上回るほど。熱中症対策は必須の事項です。屋外は勿論、屋内でも発症する事例が多くあります。家族で暮らしているが独り暮らしでは誰にも気づいてもらえない場合もある。そんな時のための策を日頃から考えておく必要がある。実技では心肺蘇生法（AEDの使い方）を久し振りに体験して、助かる命を助けるのだと改めて肝に銘じました。午後は、身近な物（風呂敷、

ハンカチ、レジ袋等）を使った骨折の手当てや止血法を学びました。手際よい処置と分かり易い説明に感動。私も家の中にある物でもしもの時に役立つ物を見つけて、賢く楽しみなが日常生活を送りたいと思います。

里の家だより

「里の家」に7月1日、千葉県支部新規採用職員14名がボランティアの研修に訪れた。小糸・小櫃の来所者（9名）、奉仕者、研修生らが一堂に会し楽しい一日を過ごした。終了後は「里の家」24年間の歴史と奉仕団事業を紹介、交流した。

▼願い事を書いた短冊を笹の先に吊るし、会場準備をする研修生



▲さんちよこ節の由来を説明をする澤田さん（いつもありがとうございます）



みんなで食事の準備をします



▲研修生と手遊びを楽しむ来所者の方々

暑さ寒さも彼岸まで...と、季節の移り変わりを心待ちにしていたのは、何年くらい前のことだったでしょうか。いつの間にか、長くて苦しい夏と寒さに震える厳しい冬の一年が繰り返されている。最近東南アジア各地で発生している豪雨災害も地球温暖化に起因すると思われる。あの猛烈なゲリラ豪雨が少し方向を変えて日本列島の方に向いてきたらとは、誰も考えたくない。

あとかき



煮上がった非常食（ハイゼック）を大釜から取り出す

君津市民ふれあい祭り（日鉄会場）は、奉仕団員15名が参加して非常食（400食）を作り、会場を訪れた市民に紹介し配布。はじめて手にした方も前に食べた事のある方も喜んで持ち帰ってくれた。保健福祉センターで行われた健康と福祉のふれあいまつりでは、赤十字奉仕団の活動報告と展示・幼児救急法の実技講習、またおもしろクイズに挑戦してもらい奉仕団の内容紹介すると共に災害時に役立つグッズ作りを呼びかけた。

君津市民ふれあい祭り
（9月27日）
健康と福祉のふれあいまつり
（10月17日）